

ほんよも

No. 026



桂陽高校図書室キャラクター
「とんちんかん」



GW中はぜひ本を読みましょう！

新年度が始まってもうすぐ一ヶ月が経ちます。コロナ禍の影響もあって、心身ともに疲れている人も多いのではないのでしょうか。昼休みや放課後にぜひ図書室へ来て、漫画でも読みながら一休みしてください。お待ちしております。

さて、もう少しで春の大型連休が始まります。今年は6連休。部活や遠征で忙しい人もいるでしょう。せっかくの長い休みなので、「ぼーっと携帯をいじっていたらいつの間にか連休が終わっていた」という切ない事態は避けたいもの。

そこで、連休中に本を読むのはどうでしょうか。6日間も休みがあれば、早い人なら5冊くらいは読めるでしょう。「何を読んだらいいかわからない」という人は、図書室に置いてある「桂陽高校の100冊」を見て選んでください。また、桂陽高校のホームページを見れば今までの図書だよりが見られます。それを見て選ぶもよし。

素敵な連休を過ごしてください！



～戦争で全てを失った少女の復讐～

『同志少女よ、敵を撃て』（逢坂冬馬）

内容・あらすじ

第二次世界大戦下のソ連。モスクワ近郊の農村に暮らす 16 歳の少女・セラフィマの日常は突然奪われました。敵国のドイツ軍が村を襲い、彼女の母親や村人たちを惨殺。殺される寸前でセラフィマは女性兵士イリーナに救われます。「戦いたいのか、死にたいのか」と問われた彼女は、イリーナが教官を務める訓練学校で一流の狙撃兵になることを決意します。母を撃ったドイツ人狙撃手と、母の遺体を焼き払ったイリーナに復讐するために――。

同じ境遇で家族を喪い、戦うことを選んだ女性狙撃兵たちとともに訓練を重ねたセラフィマは、戦いの最前線となるスターリングラードへと向かいます。果たして彼女は復讐を遂げることができるのか――。



川口先生の感想

今年の本屋大賞受賞作として話題になっている作品です。セラフィマが狙撃兵として成長していく様を描くのと同時に、最初から最後まで描かれているのは「戦争の悲惨さ」。セラフィマの仲間もバタバタ死にます。目を背けたくなるようなシーンもたくさんあります。改めて「戦争は誰も幸せにならないな」と感じます。主人公のセラフィマが最後に平穏な生活を手にするので、ようやく物語が救われる感じです。

その悲惨な戦争が、現在ウクライナで起こっています。この本の中にも、ウクライナ出身でロシアに複雑な感情を抱く少女が登場します。セラフィマも「ロシアとウクライナの友情は永遠に続くのだろうか」と語っています。実は、本屋大賞の投票締切日は1月3日でした。つまり、ロシアのウクライナ侵攻が始まる前です。投票した書店員の人たちも呆然としているのではないのでしょうか。現在のウクライナでもセラフィマと同じ境遇に陥っている人がいるかもしれません。色んな意味で、今読むと心に刺さる作品だと思います。

図書購入希望リクエストはこのフォームで受け付けています！→

